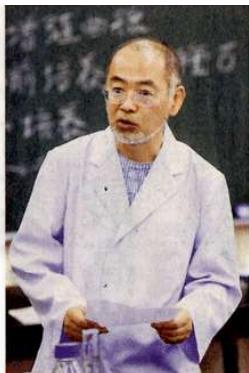


デーリー東北

2020年(令和2年)8月10日(月曜日) (3)

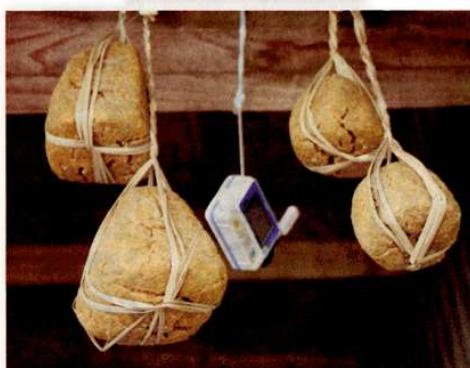
ほしの・たもう 名古屋大学院を退学後、産業技術総合研究所などを経て、2019年より八戸工業大学に勤務。菌類の生き方を調べる微生物生態学の専門。東京都渋谷区生まれ、55歳。



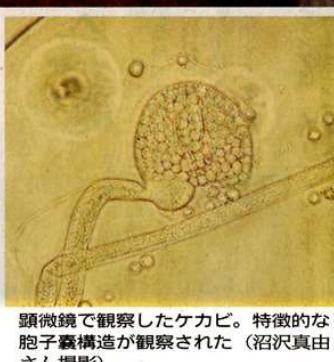
⑪ 星野保教授

私は昨年から八戸で「寒さと生きる菌類」を研究している。昨年12月3日の本紙で私の研究の一端を紹介した。その中で「味噌玉」の菌について少しふれたが、その後に若干の進歩と思うことががあるので、改めて伝えたい。

南部地方で作られる自家製の味噌（本当の手前味噌？）を「玉味噌」と呼ぶ。作り方は、まず蒸し煮した大豆をつぶして四角錘にまとめる。これが味噌玉だ。これを1カ月以上、軒下に吊して乾燥と万引付けする。水洗いし、碎いてから塩と水を加えておにぎり込み熟成させ、玉味噌を完成させる。「味噌玉」と「玉味噌」でややこしいのだが、簡単に言うと味噌玉という工



民家の軒下に吊されている（小笠原格さん撮影）
II 4月21日、東通村



顕微鏡で観察したケカビ。特徴的な胞子嚢構造が観察された（沼沢真由さん撮影）

「味噌玉」の中に生きる菌

は10度以下の低温だ。ただし、両者に違いもある。宮古では藁編を使い、東通はスゲを束ねた繩で吊す。これは北で米作が難しかった頃の記憶が残っているのだろう。

味噌玉は徐々に乾燥し、ひびが入る。そのひびに白や黄色などのカビが生えてくる。私はこの菌たちが誰なのか？ どんな役割を持つてい

た。毎週職場の会議で顔を合

わせる体育教員の大室康平さんはむつ市の出身で、私の話を聞くと村役場の知り合いを紹介してくれた。

さらに商工観光室の小笠原

は10度以下の低温だ。ただし、両者に違いもある。宮古では藁編を使い、東通はスゲを束ねた繩で吊す。これは北で米作が難しかった頃の記憶が残っているのだろう。味噌玉は徐々に乾燥し、ひびが入る。そのひびに白や黄色などのカビが生えてくる。私はこの菌たちが誰なのか？ どんな役割を持つてい

た。毎週職場の会議で顔を合った。岩手の味噌玉は、SNSの情報で農業経済学の専門家である後藤厚子さんに教えてもらつた。宮古市江郷の民宿「フィールドノート」は、地域の伝統を継承した玉味噌製造を毎年3月上旬に行う。現地で発酵過程を見ることはできなかつたが、発酵後の味噌玉を分けていたところができるだけであることは文献で知っている。だが、どうやってその作り手と連絡を取るか思案していたところ、思わずこうか

ら救いの手が差し伸べられ

程をへて造られるのが玉味噌

の生き方？ を知りたい。残念

なことに私たちの研究もコロ

ナ禍の影響を強く受けた。本

そこで、小笠原さんが記録か

ら試料採集までの一部始終を

来なれば現地で発生する菌た

ちを学生と共にじっくり観察

行つてくれた。これを論文に

まとめ際、彼にはぜひ研究

チームの一人として加わって

ほしい。

こうして集めた試料から大きく分けると2種類のカビが

分離できた。一つはケカビの仲間で、全く同じ種類ではないが、インドネシアのテンペ

たり手と連絡を取るか思案して

いたところ、思わずこうか

ら救いの手が差し伸べられ

にカビ付けし、塩水中で発酵

させることで、

この

か

と重なり、現地に私たちが訪

問することが難しくなった。

た。

ナ禍の影響を強く受けた。本

そこで、小笠原さんが記録か

ら試料採集までの一部始終を

来なれば現地で発生する菌た

ちを学生と共にじっくり観察

行つてくれた。これを論文に

まとめ際、彼にはぜひ研究

チームの一人として加わって

ほしい。

こうして集めた試料から大き

く分けると2種類のカビが

分離できた。一つはケカビの

仲間で、全く同じ種類ではな

いが、インドネシアのテンペ

たり手と連絡を取るか思案して

いたところ、思わずこうか

ら救いの手が差し伸べられ

にカビ付けし、塩水中で発酵

させることで、

この

か

と重なり、現地に私たちが訪

問することが難しくなった。

た。

ナ禍の影響を強く受けた。本

そこで、小笠原さんが記録か

ら試料採集までの一部始終を

来なれば現地で発生する菌た

ちを学生と共にじっくり観察

行つてくれた。これを論文に

まとめ際、彼にはぜひ研究

チームの一人として加わって

ほしい。

こうして集めた試料から大き

く分けると2種類のカビが

分離できた。一つはケカビの

仲間で、全く同じ種類ではな

いが、インドネシアのテンペ

たり手と連絡を取るか思案して

いたところ、思わずこうか

ら救いの手が差し伸べられ

にカビ付けし、塩水中で発酵

させることで、

この

か

と重なり、現地に私たちが訪

問することが難しくなった。

た。

ナ禍の影響を強く受けた。本

そこで、小笠原さんが記録か

ら試料採集までの一部始終を

来なれば現地で発生する菌た

ちを学生と共にじっくり観察

行つてくれた。これを論文に

まとめ際、彼にはぜひ研究

チームの一人として加わって

ほしい。

こうして集めた試料から大き

く分けると2種類のカビが

分離できた。一つはケカビの

仲間で、全く同じ種類ではな

いが、インドネシアのテンペ

たり手と連絡を取るか思案して

いたところ、思わずこうか

ら救いの手が差し伸べられ

にカビ付けし、塩水中で発酵

させることで、

この

か

と重なり、現地に私たちが訪

問することが難しくなった。

た。

ナ禍の影響を強く受けた。本

そこで、小笠原さんが記録か

ら試料採集までの一部始終を

来なれば現地で発生する菌た

ちを学生と共にじっくり観察

行つてくれた。これを論文に

まとめ際、彼にはぜひ研究

チームの一人として加わって

ほしい。

こうして集めた試料から大き

く分けると2種類のカビが

分離できた。一つはケカビの

仲間で、全く同じ種類ではな

いが、インドネシアのテンペ

たり手と連絡を取るか思案して

いたところ、思わずこうか

ら救いの手が差し伸べられ

にカビ付けし、塩水中で発酵

させることで、

この

か

と重なり、現地に私たちが訪

問することが難しくなった。

た。

ナ禍の影響を強く受けた。本

そこで、小笠原さんが記録か

ら試料採集までの一部始終を

来なれば現地で発生する菌た

ちを学生と共にじっくり観察

行つてくれた。これを論文に

まとめ際、彼にはぜひ研究

チームの一人として加わって

ほしい。

こうして集めた試料から大き

く分けると2種類のカビが

分離できた。一つはケカビの

仲間で、全く同じ種類ではな

いが、インドネシアのテンペ

たり手と連絡を取るか思案して

いたところ、思わずこうか

ら救いの手が差し伸べられ

にカビ付けし、塩水中で発酵

させることで、

この

か

と重なり、現地に私たちが訪

問することが難しくなった。

た。

ナ禍の影響を強く受けた。本

そこで、小笠原さんが記録か

ら試料採集までの一部始終を

来なれば現地で発生する菌た

ちを学生と共にじっくり観察

行つてくれた。これを論文に

まとめ際、彼にはぜひ研究

チームの一人として加わって

ほしい。

こうして集めた試料から大き

く分けると2種類のカビが

分離できた。一つはケカビの

仲間で、全く同じ種類ではな

いが、インドネシアのテンペ

たり手と連絡を取るか思案して

いたところ、思わずこうか

ら救いの手が差し伸べられ

にカビ付けし、塩水中で発酵

させることで、

この

か

と重なり、現地に私たちが訪

問することが難しくなった。

た。

ナ禍の影響を強く受けた。本

そこで、小笠原さんが記録か

ら試料採集までの一部始終を

来なれば現地で発生する菌た

ちを学生と共にじっくり観察

行つてくれた。これを論文に

まとめ際、彼にはぜひ研究

チームの一人として加わって

ほしい。

こうして集めた試料から大き

く分けると2種類のカビが

分離できた。一つはケカビの

仲間で、全く同じ種類ではな

いが、インドネシアのテンペ

たり手と連絡を取るか思案して

いたところ、思わずこうか

ら救いの手が差し伸べられ

にカビ付けし、塩水中で発酵

させることで、

この

か

と重なり、現地に私たちが訪

問することが難しくなった。

た。

ナ禍の影響を強く受けた。本

そこで、小笠原さんが記録か

ら試料採集までの一部始終を

来なれば現地で発生する菌た

ちを学生と共にじっくり観察

行つてくれた。これを論文に

まとめ際、彼にはぜひ研究

チームの一人として加わって

ほしい。

こうして集めた試料から大き

く分けると2種類のカビが

分離できた。一つはケカビの

仲間で、全く同じ種類ではな

いが、インドネシアのテンペ

たり手と連絡を取るか思案して

いたところ、思わずこうか

ら救いの手が差し伸べられ

にカビ付けし、塩水中で発酵

させることで、

この

か

と重なり、現地に私たちが訪

問することが難しくなった。

た。

ナ禍の影響を強く受けた。本

そこで、小笠原さんが記録か